

<日商簿記1級工業簿記ミニテスト12>製造間接費

<問題>

CMC社では、景気上昇局面において新規の設備投資を行った。この投資が固定費の全額とした場合以下の問に答えなさい。

- ・ 解答欄の各区分毎の操業度
- ・ 各基準操業度別の正常配賦率（固定費部分）
- ・ 当月の予定配賦額（実際操業度＝160時間）
- ・ 配賦差異（不利差異の場合は△を付すこと）

なお、1年を365日、1日の稼働時間を8時間、製品1個の生産にかかる標準作業時間を2時間とし、基準操業度は時間を単位としている。また、当月の製造間接費実際発生額（固定費部分）は減価償却費の月割経費のみである。

<新規投資の内容>

取得原価 9,600,000円、経済的耐用年数5年、残存価額0円

減価償却方法：定額法

修繕に要する期間：年間12日

会社の休日：年間120日

不可避な作業休止予定：年間64時間

5年間の平均操業度：1,700時間

<来年度の予算>

製造間接費予算（固定費） 2,457,180円

予定販売量：900個

期首予定在庫数：200個

期末予定在庫数：400個

	操業度	正常配賦率	予定配賦額	配賦差異
理論的生産能力	2,920	841.5	134,640	△25,360
实际的生産能力	1,800	1.365.1	218,416	58,416
平均操業度	1,700	1.445.4	231,264	71,264
期待実際操業度	2,200	1.116.9	178,704	18,704